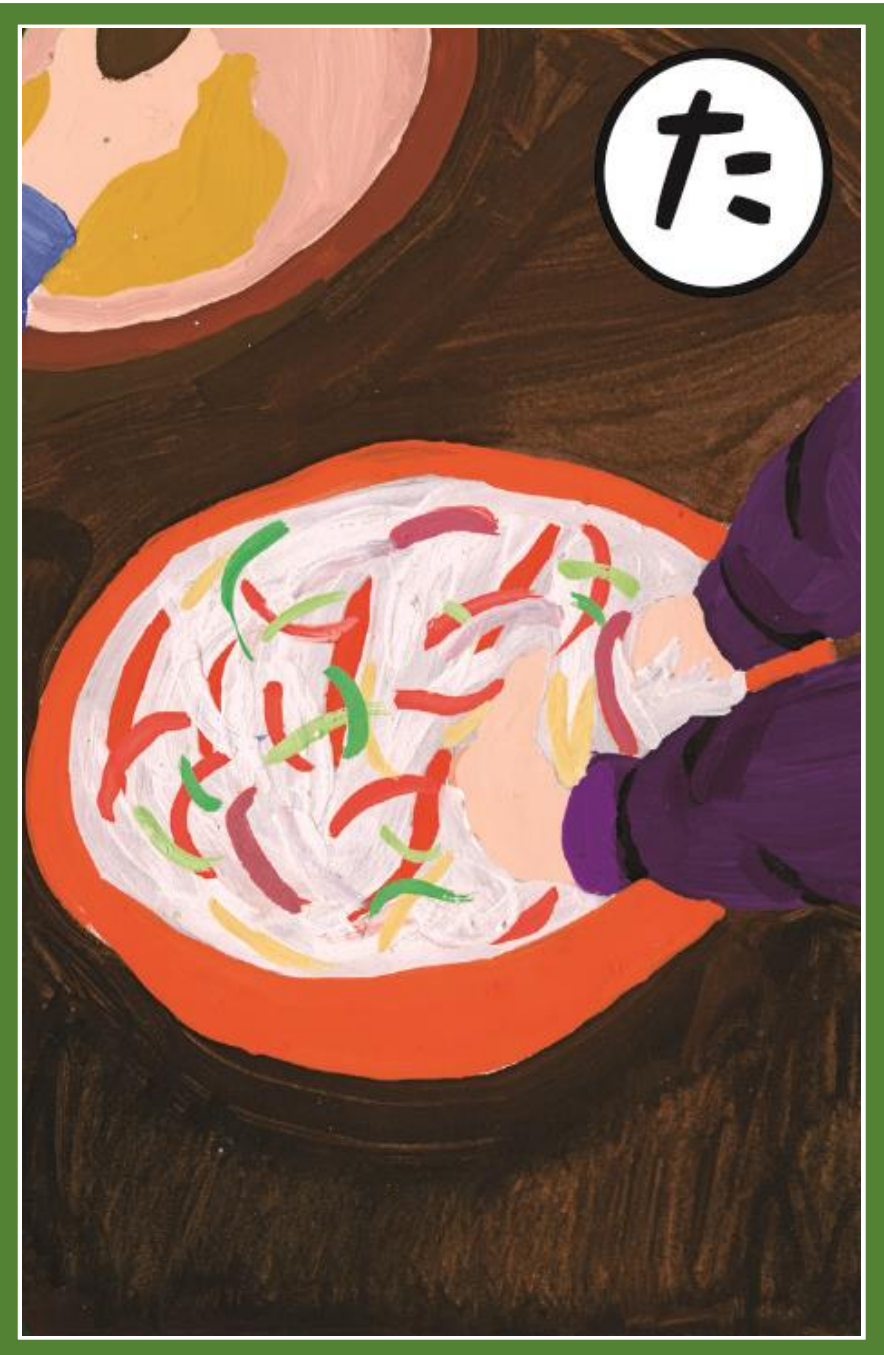


新庄ぬたは千切りにして絞った大根と豆腐を酢味噌と鬼辛子で和えた郷土料理です。具材として酢だこや生の魚やネギなど各家庭ごと味付けに工夫をこらしています。鬼辛子の効いた味はお酒との相性も良く下新庄の伝承料理となっています。

『新庄ぬた 下新庄町』

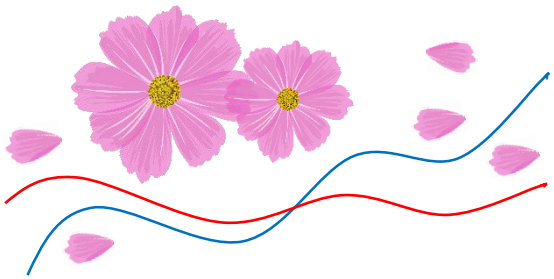


た

大根だいこんと

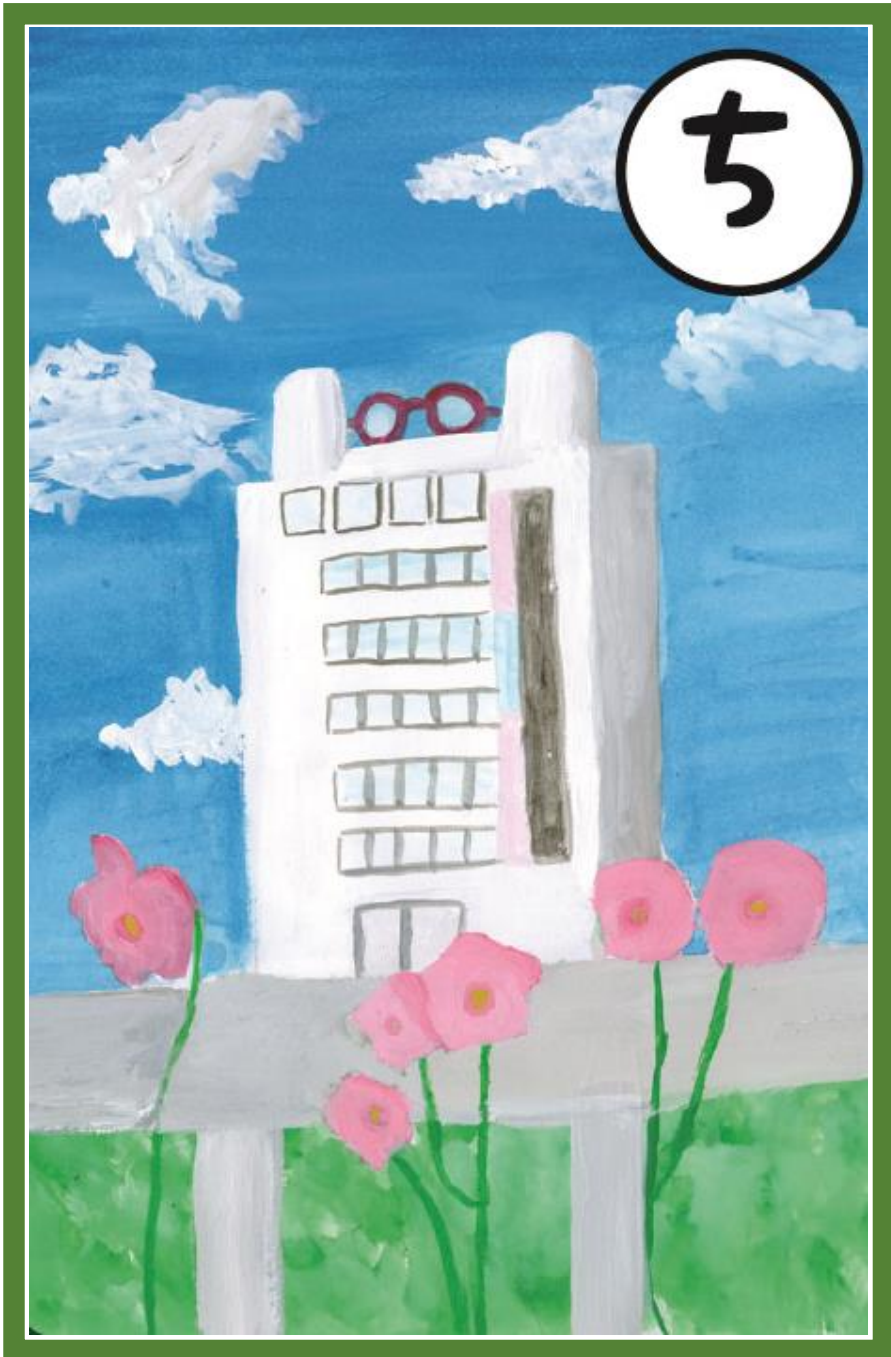
豆腐とうふを和あえる

新庄ぬたしんじょう



めがねの産地である鯖江の象徴として昭和五十九年に十階建てのめがね会館がオープンしました。めがねショップをはじめ、めがね枠やアクセサリーを作る体験工房、めがね作りの歴史が分かる道具等の展示や説明が聞ける展示室等もあります。

『めがね会館 産業観光施設』



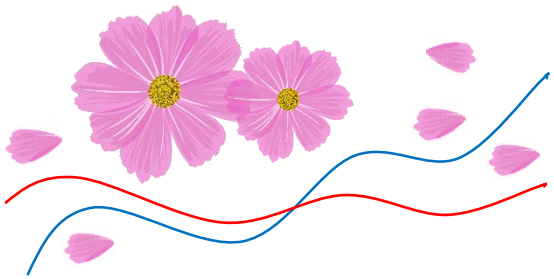
ち

ち  
地  
域  
一

めがね会館

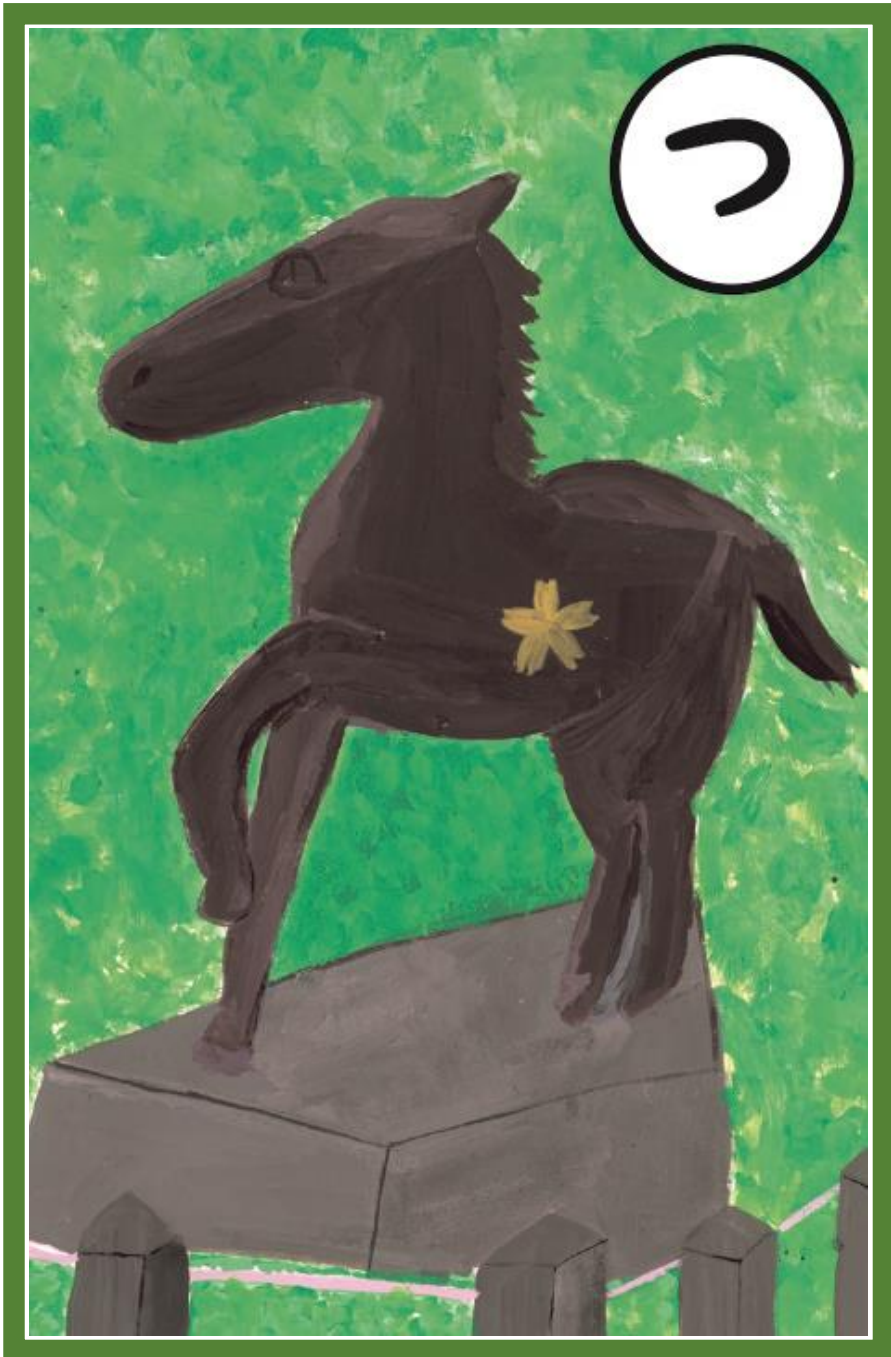
ほこ  
誇りあり



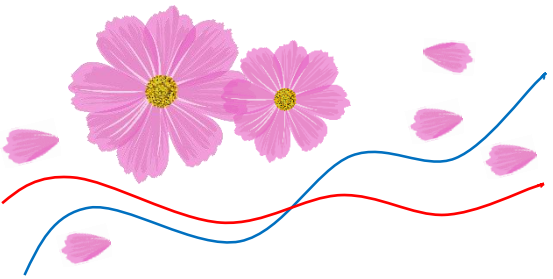


古来より神は馬に乗って降臨するといわれています。境内には昭和初期に木水奥兵衛氏が奉納された神馬の銅像が建っています。平成二十二年に木水又雄氏からの寄付を元に補修を行いました。高岡の業者からは「躍動感あふれる神馬で型を取らせて欲しい」と言わしめた程の名作です。

『劔神社 下新庄町』

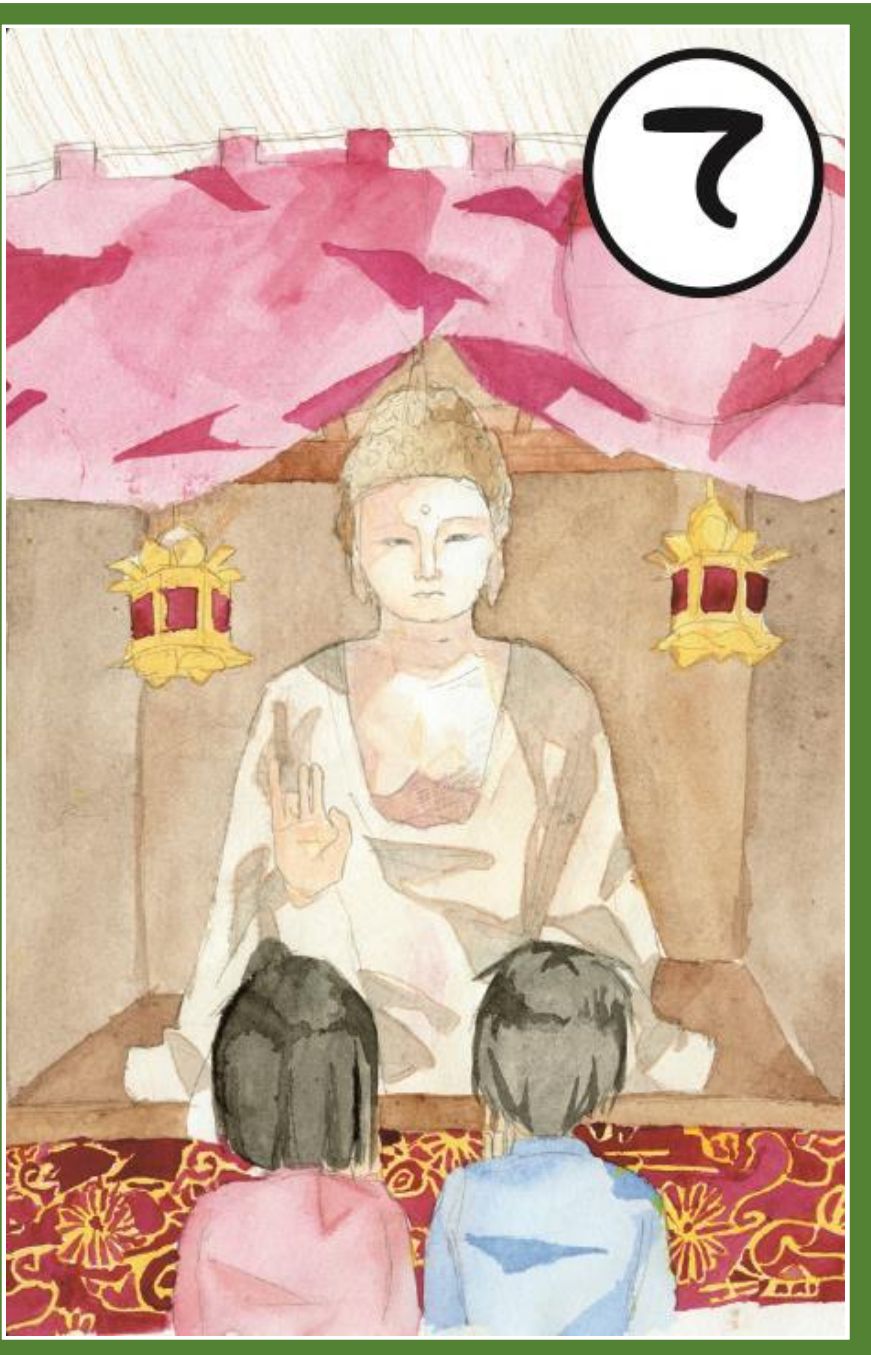


つ  
劔つるぎ神社じんじや  
神馬しんめが守まもる  
鎮守ちんじゆの森もり



定次町のお薬師さんは許佐羅江清水の付近にあった薬師堂を天保十二年（1841年）現在の地に移転したものです。薬師如来が祀られており、四月八日の薬師祭には甘茶沸かしを行い、地元の人々がお参りされます。

『薬師如来 定次町』



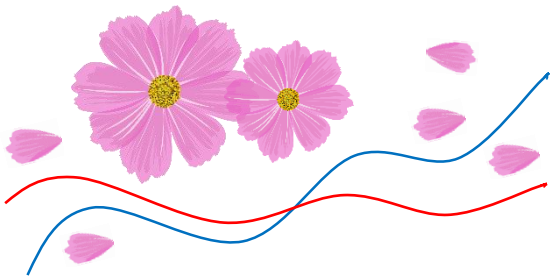
7

手を合あわす

薬やく師し如にょ来らいに

願がんををかけ





大正三年六月三里山中腹で石材採取作業のため表土を剥いでいたとき偶然発見されました。銅鐸は当時五穀豊穰を祈る祭礼に使われていたと考えられています。高さ52cm重さ4・1kgあり表面には幾何学模様などの装飾が施されています。銅鐸は現在、東京国立博物館となっています。

『銅鐸 新町・下新庄町』



と

銅鐸どうたくで

何をなに祈いのった

古代人こだいじん